

8 ねらいと連動した「評価問題」って？



学力の定着状況を把握するために、毎学期末に漢字・計算テスト（50問）をしています。（10年経験者の声）

評価問題とは、子どもの学習到達状況や定着状況を確認するために、ねらいを明確にして作成・実施するペーパーテストやワークシート問題などのことです。学期末にまとめて、基礎的・基本的な知識・技能を問うテストを行うだけでなく、評価問題を適切に作成・活用して、子どもの学習到達状況や定着状況を把握することが大切です。

では、どのような評価問題を、どのようなタイミングで行えばよいのでしょうか？

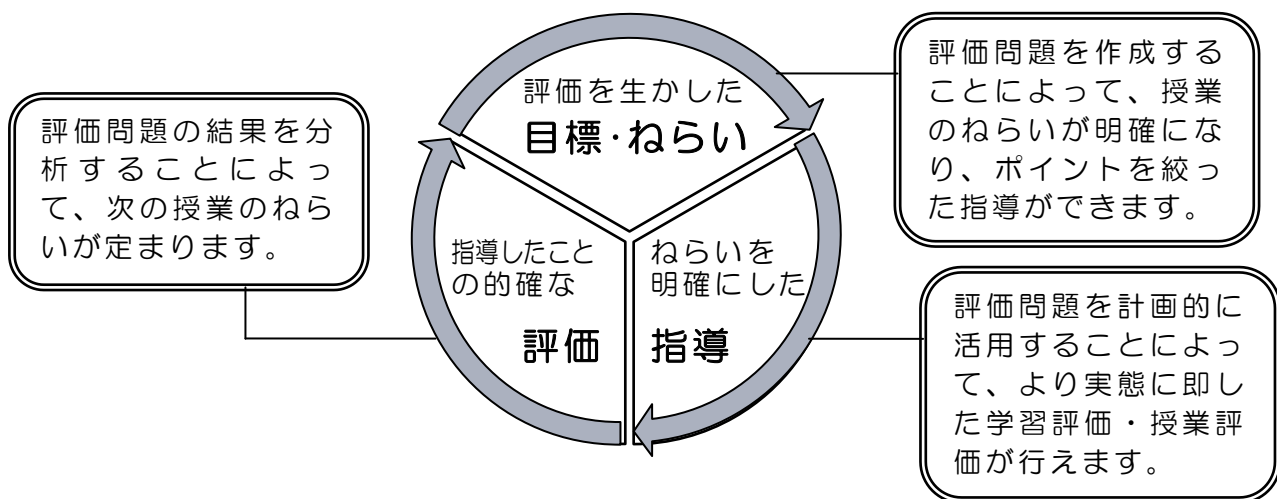
習得した知識・技能を生かして考え、答えることのできる問題等を、学習の過程において計画的に活用することが大切です。



ねらいと評価問題との連動

評価問題の効用

教育活動では、指導の計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されます。評価の結果から、次の指導計画を見直し、授業を改善することができます。



評価問題には、一問一答式のものや、授業での発問の答えや板書の内容がそのまま解答となるようなものだけでなく、習得した基礎・基本的な知識・技能を生かすことによって解答することができる問題を設け、計画的に活用しましょう。

評価問題作成のポイント

- 単元の目標・授業のねらいと指導内容に基づき、作成する。
 [授業を実施する前に作成することによって、ねらいをより明確にして授業を行うことができます。]
- 記憶を問うだけのものにならないよう、子どもが授業で習得したことを生かして解ける問題を作成する。
 [解答の根拠や答えを導くプロセスを問い、それらを説明させる問題によって学習到達状況・定着状況をより実態に即して把握することができます。]
- 評価の観点別に作成するとともに、解答の評価規準を設定する。
 [問題のねらいを明確にし、解答に応じた手立てを考えるのに有効です。]
- 市販の評価問題プリント等を使用している場合には、目の前の子どもの実態に合わせて設問の補足作成をするなど、ねらいに即したものにします。

評価問題を活用した授業改善

評価問題に対する子どもの解答から、ねらいが達成されているかどうか、目標に即した力がどのくらい定着しているかを分析しましょう。そして、不十分であると認識された事項については、授業内容を振り返り、課題を明らかにして次時からの指導計画の見直しを行い、補充的な指導を含めた授業改善を図りましょう。

評価問題を活用する際のポイント

- ねらいに応じて、授業ごとや単元ごとに定期的・計画的に活用する。
- 評価問題の解答を分析し、子どもの学習到達状況・定着状況を把握する。
- 課題を明らかにし、子ども一人一人の状況に応じて指導する。
- 次の授業のねらいを明らかにし、授業を構築する。
 [学習到達状況・定着状況に即して子ども観を明確にし、次の授業のねらいを定めましょう。]

※ 国立教育政策研究所「授業アイデア例」、愛媛県教育委員会「学びの森」学習支援サイトが評価問題を生かした授業改善の参考になります。

評価問題の作成や課題の分析等を通し、教師自身が授業の振り返りを行うことで、よりよい授業実践につながります。